分担研究課題　「地域における保健・福祉施設及び要員の有効活用に関する研究」

「統合保育のためのマニュアル」作成に関する研究

日暮　眞[1)]　山内昭道[1)]　窪田英夫[1)]　後藤嘉余子[1)]　鈴木裕子[1)]
落合香代[2)]　中村安秀[3)]　高田谷久美子[4)]　寺田美智子[5)]　塚原洋子[6)]

要約

「統合保育のためのマニュアル」原案を作成した。

その内容は、(1)統合保育概論（理念・その歩み・課題）　(2)ハンディキャップの概念　(3)統合保育の現状と問題点　(4)各障害解説と保育上の留意点　(5)保育者養成上の課題　(6)資料（参考文献・親の会のリスト等）より成る。とくに医学的記述に関し、保育所保母や幼稚園教諭が十分理解し得るように平易な表現に配慮しながら、統合保育の現場に登場する障害の種類を列挙し、それぞれの保育上の留意点を含め記述することに努めた。記述に欠けた障害の種類（たとえば全盲等）を加え、さらに今年度作成した案を実際統合保育を実践している保育機関でパイロットスタディー（保育者の理解度チェック・現場での課題に十分対応しているか等）を行い、来年度最終報告をまとめる予定である。

見出し語：　統合保育　障害児　障害児保育マニュアル

研究目的

障害児保育に関し制度化が進み、当初は特別に関心をもつ人々によってのみ実施されていた障害児保育も、今日では対象となる子どもたちが、多くの地域の保育所で受け入れられるようになってきた。しかし、現実に障害児保育に携わっている保育現場では、さまざまな課題をかかえ試行錯誤しているところが少なくない。保育所内で、障害を持つ子どもたちが幸せな保育を受けているか、障害児保育に携わる保母は安定し、意欲をもって保育にあたることができているのか、園および地方行政の定める制度やその運用に矛盾や問題はないのか、等々。

本研究班では、統合保育を実効あるものとするべく福祉のみならず、医療・保健上の観点をも加味して上述の諸課題克服を目指してのマニュアル案を作成した。

1）東京家政大学児童学科　2）豊島区心身障害者福祉センター　3）東京大学小児科
4）山梨医科大学看護学科　5）東京都立多摩療育園　6）東京都府中保健所

研究方法

マニュアル作成にあたり、「統合保育」の概念について「障害児も健常児もともに育つ」という共通理解に立つことを確認した上で、下記の事項について配慮して、各項分担執筆，調査，資料収集を行った。(1)統合保育上の問題点 (2)統合保育に際し、しばしば対象となる各種障害に関する医学的概説と保育上の留意点 (3)病院・保健所との連携の方策 (4)保母養成機関におけるカリキュラムおよび卒後研修への提言等。

なお、まとめにあたり、読者対象が保母であることを考慮し、できるだけ平易な表現につとめた。

結果と考察

1）統合保育マニュアル目次

「統合保育のためのマニュアル」は、以下のような目次項立てである。

1．統合保育とは何か（理念と原則）
2．ハンディキャップとは何か
3．統合保育の現状と問題点
　3－1　統計的な現状
　3－2　システムとしての統合保育
　3－3　地域の現状
4．各論（各々、医師による入門的概論と保育者による実践記録からなる）
　4－1　脳性麻痺および肢体不自由児
　4－2　ダウン症
　4－3　多動、自閉的傾向
　4－4　言語発達遅滞、精神発達遅滞
　4－5　視覚障害
　4－6　聴覚障害
　4－7　病院・保健所との連携
　4－8　諸検査の解説
5．保育者の教育上の問題
　5－1　保母養成校のカリキュラムのあり方
　5－2　職員研修の実際…幼稚園
　　…保育所
6．資料
　6－1　文献・書籍
　6－2　親の会リスト

2）総論

総論部分は、1.統合保育とは何か　2.ハンディキャップとは何か　3.統合保育の現状と問題点　の3章よりなる。統合保育の理念，本邦における歩み，現在の課題を列挙した。統合保育の現状に関する分析は、資料収集と解析がいまだ不十分で、次年度の最終報告にて完成の予定である。地域の現状として、豊島区全公立保育園の実態調査の結果をまとめて収録した。豊島区をあげた理由は、全国的視野で、比較的統合保育が良好な状態で実践されていると考えたからである。

3）各論

統合保育の場で、しばしば遭遇しやすい各種障害児についてその医学的解説（病因・身体徴候・症状・療育方針等）を素人にも理解できるよう平易に記述した。加えて、保育の場で留意しなければならない保育姿勢と指導に関し、医師の立場よりの具体的な提言を各項に記した。

扱った障害の種類は、(イ)脳性麻痺および肢体不自由児　(ロ)ダウン症　(ハ)多動、自閉的傾向　(ニ)言語発達遅滞、精神発達遅滞　(ホ)視覚障害　(ヘ)聴覚障害　である。視覚障害のうち、当初予定していた全盲に関しては、今回は記述できなかったため、次年度別項にて加える予定である。

これらの障害をより深く理解し、あわせて、現場の保母が障害児の母親よりしばしば耳にする脳波・ＣＴ等の検査について、素人向けの平易な解説を加えた。

さらに、ときとして保育者が連携をとることを求められる医療機関や、保健所との対応方策に関しても記述した。

４）保育者の教育上の課題

(1)保育者養成校のカリキュラムのあり方　(2)職員研修　の２項に分けて記述した。保育者養成校のカリキュラムのあり方として、学生たちにより多くの種類の障害児保育を実習させ、個々の障害に関し医学面・保育面での知識と実践とを理解・経験させることが望ましい。しかし、保育者養成校での過密なカリキュラムの現状から推して、上述のごとき教育時間枠を確保することは困難である。そこで現実的な対応として、幼稚園・保育園の保育職員を対象として現任研修会の充実を提言し、その内容にも踏み込んで記述した。

５）資料

資料としては、各種障害に関する文献と各種障害児親の会リストを加えた。

今後の方針

現在統合保育を実施している保育機関に、今年度作成した「統合保育のためのマニュアル」案を配布し、以下の諸点を検討してもらう予定である。すなわち、(1)障害児保育の現場での有効性　(2)保育者として内容が十分理解可能か否か　(3)障害の種類としてこの案にもられたもので十分か否か等。対象とした障害の種類として全盲を追加する。

検索用テキスト　OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約
「統合保育のためのマニュアル」原案を作成した。
その内容は、(1)統合保育概論(理念・その歩み・課題)　(2)ハンディキャップの概念(3)統合保育の現状と問題点　(4)各障害解説と保育上の留意点　(5)保育者養成上の課題(6)資料(参考文献・親の会のリスト等) より成る。 とくに医学的記述に関し、保育所保母や幼稚園教諭が十分理解し得るように平易な表現に配慮しながら、統合保育の現場に登場する障害の種類を列挙し、それぞれの保育上の留意点を含め記述することに努めた。記述に欠けた障害の種類(たとえば全盲等) を加え、さらに今年度作成した案を実際統合保育を実践している保育機関でパイロットスタディー(保育者の理解度チェック・現場での課題に十分対応しているか等) を行い、来年度最終報告をまとめる予定である。